

チップロード^{りつめん}立面用

施工要領書

四国化成の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

末永くご愛用いただくために、この「施工要領書」をよくお読みいただき、正しい施工をお願いします。

●施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと、不具合発生の原因となる事があります。

おことわり

- 樹脂の特性上、雨などの水に濡れると塗膜が白くなることがありますが、物性には問題ありません。
- ゴム製品のため、紫外線などにより多少の色変化があります。
- 塗装の裏側から水が浸透し、凍結を繰り返した場合、変色や剥離を起こすことがあります。
- 改良のため予告なしに製品の一部を変更することがありますのでご了承ください。
- 駐車場には施工できません。

安全に関する注意事項

- 製品の特性を十分にご理解いただき、正しくかつ安全にご使用いただくために、次の事項につきまして、ご注意ください。
- ウレタン樹脂の主剤および下塗材については吸引したり、皮膚に触れたりすると、中毒やかぶれを起こす恐れがあるので、取扱いには下記の注意を守ってください。
- 詳細な内容については、安全データシート (SDS) をご参照ください。
 1. 作業中は、換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにしてください。
 2. 取扱中は、材料が皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは、送気マスクを付け、更に頭巾、長袖の作業服、えり巻きタオル、保護手袋を着用してください。
 3. 作業後は手洗い・うがいをしてください。汚れた作業服は洗濯してください。
 4. 皮膚に付着した場合には、多量の石鹼水で洗い落とし、痛みまたは、外観に変化があるときは、医師の診断を受けてください。
 5. 目に入った場合には、多量の水で洗い、ただちに医師の診断を受けてください。
 6. 蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
 7. 誤って飲み込んだ場合には、ただちに医師の診断を受けてください。
 8. 容器からこぼれた場合には、砂などを散布し、回収した後、水洗いしてください。
 9. 容器は密封し、直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管してください。また、冬期には凍結しないように注意してください。
 10. 子供の手の届かないところに保管してください。
 11. 空容器の処理は、可燃物・不燃物に仕分けして産業廃棄物処理業者に依頼してください。残さ・残液などは下水・河川・池・井戸・地下水などを汚染する恐れのある場所には廃棄しないでください。
 12. 指定された以外の材料と混合しないでください。

火気厳禁

(主 剤) 危険物 第4類 第2石油類
(下塗材) 非危険物 指定可燃物合成樹脂類

商品のセット内容(3㎡セット)

商品は3梱包となっています。

①ゴムチップ骨材 + ②樹脂セット(プライマーなし) + ③立面用添加材・下塗材セット

材 料	内 容 量	梱包単位	備 考	
①ゴムチップ骨材 3㎡用	CPR50~57	16.5kg/袋	1袋	-
	CPR60~63、70	15kg/袋		
②樹脂セット(プライマーなし)3㎡用	主剤(ウレタン樹脂)	3.6kg/缶	1ケース	夏用・冬用
③立面用添加材・下塗材セット	添加材	0.15kg/袋	1ケース	下塗材：2本/ケース
	下塗材	1kg/本×2		
	施工要領書	1部		

施工前の注意事項

- この商品は、現場施工タイプの鍍塗り材です。施工前に商品の確認を行ってください。
- 樹脂には、夏用(4月~10月:15~35℃)と冬用(11月~3月:5~15℃)があります。季節に応じて使い分けてください。
- 夏期、材料は風通しの良い日陰などで保管してください。直射日光下に材料を長時間置くと、材料温度が高くなるために可使時間が極端に短くなることがあります。
- 冬期、材料は室内など気温の高いところ(10℃以上)に保管してください。気温の低い屋外(5℃以下)に保管すると主剤の粘度が高くなり、混合作業に不具合を生じ、発泡することがあります。
- 施工にあたっては次のものをご用意してください。記載の無い物でも、必要に応じてご用意ください。
 - 練り舟
 - はかり
 - 金鍍(下塗材および上塗材の塗り付けに使用)
 - 鍍板(下塗材および上塗材の塗り付けに使用)
 - 電気鍍または家庭用アイロンなど(上塗材の押さえに使用)
 - 各種保護具一式
 - 灯油(施工中の鍍拭き取り用)
 - ウエス(施工中の鍍拭き取り用)
 - その他左官道具一式
 - 塗料用シンナー(施工後の工具洗浄用)

施工上の注意事項

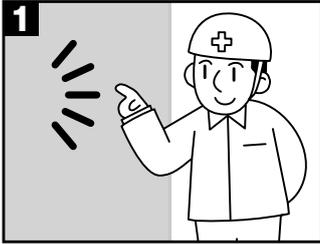
- 水は一切使用しないでください。(水の混入は硬化不良および発泡の原因になります。)
- 主剤および下塗材はシンナーで希釈しないでください。硬化不良の原因になります。
- 主剤と骨材との混合は、均一になるまで十分に行ってください。混合が不十分で樹脂だまりがある場合、発泡やフクレなどの原因となります。
- ゴムチップ骨材には多少塊がありますが、主剤と混合する前にほぐしてから使用してください。
- 夏期炎天下などでの施工は、樹脂の硬化が促進され可使時間が極端に短くなるため、気温の低い日陰から、早朝、夕方などに施工してください。
- 屋外施工では天候に注意し、降雨、強風時の施工は避けてください。
- 気温10℃以上での施工を標準とします。施工後、気温が5℃以下になる恐れのある場合は施工をしないでください。
- 施工中は、現場付近での火気の使用は避けてください。
- 樹脂が硬化するまでは多少臭気が伴います。室内での施工は、特に換気を行ってください。
- 樹脂が肌に付着しないよう頭巾、長袖の作業服、えり巻きタオル、保護手袋を着用してください。万一肌に付着した場合は、石鹼ですぐに洗い流してください。
- 一度開封した主剤および下塗材は、速やかに使い切ってください。長期保存はできません。高温多湿時に開封したままにしておくと、固まってしまうのでご注意ください。
- 施工の際、塗り面への汗や水の落下に注意してください。塗り面のフクレや白化の原因となります。
- 完全硬化するまでは雨水などに当たらないようにしてください。(必要に応じてシートなどで雨養生してください。)
- 下塗材および上塗材は厚塗りしすぎるとダレやフクレの原因になりますので、標準塗り厚を守ってください。
- 使用期限は製造年月日から1年間です。

下地に関する注意事項

● 適応下地／コンクリート、セメントモルタル(金鏝仕上げ)

※木鏝仕上げなど下地が粗い場合は施工できません。

※土留めには施工できません。



- 下地はコンクリート、セメントモルタルとし、平滑に仕上げたものとしします。
- 下地は十分乾燥させてください。湿っていると塗材のハガレ・フクレの原因となります。新設コンクリートの養生は14日以上、セメントモルタルの養生は7日以上としてください。(含水率10%以下。)



- 下地表面のホコリ、ゴミ、土、レイトンス、油分などは完全に除去してください。



- 下地の不陸(凹凸)、欠損部、クラックなどは、セメントモルタルなどで平滑に補修してください。不陸がある場合は、フクレを生じることがありますので注意してください。

施工手順

- 標準塗り厚：8.0mm(下塗り0.5mm+上塗り7.5mm)

- 0.5㎡単位の施工を標準とします。

※下塗材は0.5㎡程度の小面積毎に塗布していきます。

※上塗材(樹脂+ゴムチップ骨材+添加材)は1㎡程度ずつ計量して使用してください。

※作業は2名以上で手分けすると作業効率が上がります。

※規定量を順番通りに均一に混合してください。追い足しは樹脂だまりによる発泡の原因となるので、避けてください。

1 ゴムチップ骨材の空合わせ



- 骨材を練り舟に入れます。

お願い

- ・骨材はロットにより多少色調の異なる場合があります。その場合、仕上がりを均一にするため、骨材どうしの空合わせを十分に行ってください。
- ・骨材に塊がある場合は、ほぐしてください。

2 樹脂とゴムチップ骨材の混合



- 次に主剤を骨材中に投入し、骨材と均一になるまで十分に混ぜ合わせます。

お願い

- ・混合が不十分な場合、硬化不良や白く発泡する原因となります。特に冬期気温の低い場合には樹脂の粘度が高くなりますので、しっかり混ぜ合わせてください。
- ・添加材は主剤と骨材を混ぜ合わせた後に混合してください。先に骨材や主剤と混合するとダマや混ぜ不足によって所定の粘度が出ません。

3 添加材の混合⇒上塗材



● 添加材を②に投入し、均一になるまで十分に混ぜ合わせます。これを上塗材とします。

ポイント ・ 添加材の白色が消えるまで十分に混ぜ合わせます。

4 下塗材の塗布

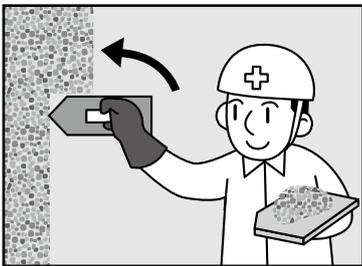


● 上塗材を塗布する直前に、下塗材を金鋺で下地へ均一に塗布します。

ポイント ・ 下塗材は0.5㎡(チューブの約1/3)程度ずつ、小面積に塗布します。
・ 一度に大面積に塗布すると上塗材を塗布中に下塗材が固まってしまう。

お願い ・ 下塗材を厚塗りをすると上塗材③のダレやフクレの原因になりますので、薄く塗り広げてください。
・ この下塗材が硬化する前に上塗材を塗り付けてください。硬化してしまうと塗り付けられません。特に夏期高温下では硬化が速いので、注意してください。

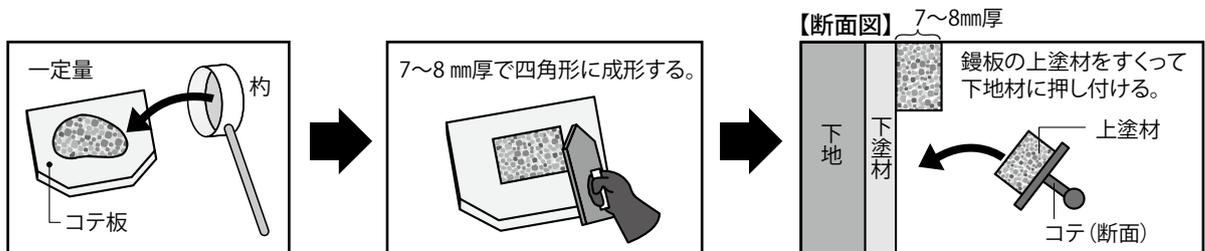
5 上塗材の塗布



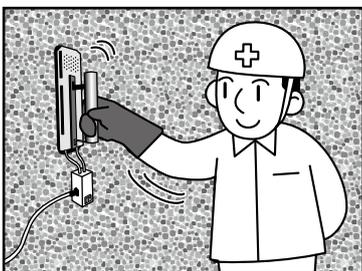
● 上塗材を④で塗布した下塗材が乾燥する前に押し付けます。
● 市販の7~8mm厚のバックアップ材等を使用して塗面を0.2~0.3㎡程度を目安に区切って塗布計画を立てると、塗り厚が一定になるため仕上げやすくなります。

ポイント ・ 杓などで上塗材を少量ずつとり、鋺板に標準塗り厚(7.5mm)くらいになるよう金鋺で四角形に押し固めて成形します。
・ それを鋺ですくって「貼り付ける」ように下塗材に押しつけます。

お願い ・ 必要以上に時間を要すると樹脂の反応が進み、塗り付けおよび仕上げ作業が出来なくなりますので作業は手早く、または2名以上で分担して行ってください。
・ 下塗材が上塗材に付かないように注意してください。
・ 金鋺での塗面のならし作業および押さえ仕上げはできません。必ず電気鋺などを使用してください。



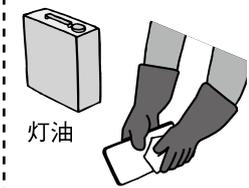
6 上塗材の押さえ仕上げ



● 電気鋺などで塗り面を良く押さえ込み、表面を密に仕上げてください。

ポイント ・ 電気鋺の代わりに家庭用のアイロンでも可能です。
・ アイロンを使用する場合は「スチーム」は使わず、中温(約150℃)で押さえます。

お願い ・ 塗り面の押さえが不十分な場合、強度不足の原因となります。



※ 施工中、電気鋺などに樹脂が付着し滑りが悪くなった場合、灯油を含ませたウエスで電気鋺などに付いた樹脂を拭き取りながら作業を行ってください。ラッカーシンナーと塗料用シンナーは硬化不良の原因になるので使用できません。

※ 灯油の使用は、ウエスに含ませて鋺を拭く程度とし、塗面に灯油が必要以上にかかたり、樹脂モルタルに混入したりすることが無いようにしてください。

※ 作業終了後、使用した器具は早めに塗料用シンナーで洗浄してください。

※ 電気鋺については弊社営業所までお問い合わせください。